

令和7年度

第2回

千葉県学力向上推進会議 資料

<目次>

- p 1 次第
- p 2 千葉県学力向上推進会議設置要綱
- p 3 第4期千葉県教育振興基本計画【概要】
- p 5 第4期千葉県教育振興基本計画
(p34～p36の抜粋【基本目標2】未来を切り拓く「人」の育成)
- p 8 明日からの指導に役立つCHIBAの学力向上施策一覧
「千葉のいちばん星☆～学力向上アクセスシート～」
- p 9 平成7年度 学力向上施策 おもな取組
- p 10 令和7年度 委員による学力向上事業の視察 記録まとめ
- p 15 令和7年度 学力向上施策アンケート 考察用集計表
- p 16 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム
- p 18 全国学力・学習状況調査の結果等について

令和8年1月27日（火）

千葉県教育庁教育振興部学習指導課

令和7年度 千葉県学力向上推進会議 委員名簿

番号	委員氏名	所属・職名
1	おやま よしのり 小山 義徳	千葉大学教育学部 教授
2	させ かずお 佐瀬 一生	帝京平成大学健康医療スポーツ学部 教授
3	いとう やすよ 伊藤 安代	千葉県PTA連絡協議会 書記
4	たかはし のりたか 高橋 律孝	株式会社千葉日報社 編集局次長兼社会部長
5	ちょう いっせい 張 乙清	株式会社ベネッセコーポレーション首都圏支社 学校事業統括責任者
6	あそう おりえ 麻生 織江	柏市教育委員会指導課 課長
7	ますだ かなえ 増田 香奈恵	市原市立国分寺台西小学校 教頭
8	ひえだ みつる 稗田 充	横芝光町立横芝中学校 教頭
9	さなだ ようこ 真田 陽子	県立船橋高等学校 教頭

令和7年度千葉県学力向上推進会議 事務局員名簿

番号	事務局員氏名	所属・職名
1	増田 武一郎	教育振興部学習指導課 課長
2	西野 将司	教育振興部学習指導課 主幹兼学力向上推進室長
3	吉村 政和	教育振興部学習指導課 学力向上推進室 主幹
4	宮本 和宏	教育振興部学習指導課 学力向上推進室 主席指導主事
5	小野塚 博	県総合教育センター研修企画部 部長
6	佐々木 浩幸	県総合教育センターカリキュラム開発部 部長
7	立川 靖子	県総合教育センター学力調査部 部長
8	土岐 泰彦	教育振興部学習指導課 学力向上推進室 指導主事
9	原 渉	教育振興部学習指導課 学力向上推進室 指導主事
10	畠山 久美子	教育振興部学習指導課 学力向上推進室 指導主事
11	渡邊 泰彦	教育振興部学習指導課 学力向上推進室 指導主事

令和7年度 第2回千葉県学力向上推進会議 次第

日時 令和8年1月27日(火)
午前10時から正午まで
会場 県庁中庁舎9階企画管理部会議室

- 1 開会の言葉
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 座長挨拶
- 4 趣旨説明
 - ・第2回会議の持ち方について

- 5 報告・協議
 - (1) 今年度の具体的な取組
 - (2) 小・中・高等学校の様子
 - (3) 視察先での様子
 - (4) 学力向上施策アンケートの結果
 - (5) 全国学力・学習状況調査の結果
 - (6) 質疑応答

～ 休 憩 ～

- (7) 各事業担当者評価の結果について
- (8) 今後の方向性について
- (9) グループ協議

「学力向上施策の成果と課題について

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の推進に向けて～」

- (10) 全体共有
- 6 諸連絡
 - ・会議録の公表について
- 7 閉会の言葉

千葉県学力向上推進会議設置要綱

(目的)

第1条 学力向上に関わり千葉県教育委員会が実施する教育施策・事業について協議し、その改善・充実を図るため、千葉県学力向上推進会議（以下、「推進会議」という。）を置く。

(協議事項)

第2条 推進会議は、学力向上に関わる教育施策・事業の改善・充実のための方策等について協議する。

(構成員)

第3条 推進会議は、幅広い意見を聴取するため、学識経験者、学校教育関係者及び保護者代表等をもって構成し、教育庁教育振興部学習指導課長が指名する。

2 構成員の任期は指名された年度の3月31日までとする。

(座長)

第4条 推進会議に座長を置き、構成員の互選により定める。

2 座長は、推進会議の議長となる。

(会議)

第5条 推進会議は、教育庁教育振興部学習指導課長が招集する。

2 推進会議は、座長が必要と認める場合は、構成員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 推進会議の事務局は、教育庁教育振興部学習指導課内に置く。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は別に定める。

2 推進会議は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関ではない。

附則

(施行期日)

1 この要綱は、令和7年4月1日から施行する。

(失効)

2 この要綱は、令和10年3月31日限り、その効力を失う。

第4期千葉県教育振興基本計画 【概要】

第1章 計画策定の基本的な考え方

- 【計画策定の趣旨】**新型コロナウイルス感染症、激甚化する災害、不安定な国際情勢など、大きな社会の変化の中、一人一人の豊かな人生と持続可能な地域社会の実現に向けて教育の果たす役割が極めて重要である。今後の千葉県教育に関する基本的な計画として、令和7年度を初年度とする「第4期千葉県教育振興基本計画」を策定
- 【計画の性格】**10年後の「千葉県教育の目指す姿」を実現するための計画であり、教育基本法第17条第2項に規定される「地方公共団体が策定する教育振興のための施策に関する基本的な計画」として策定
- 【計画の構成と期間】**基本構想編:千葉県教育の課題と取り組むべき視点を整理したうえで、基本理念を掲げ、その実現に向け、3つの基本目標と10年後の千葉県教育の目指す姿を記載
実施計画編:令和7年度から11年度までに実施する、幼児期から高等学校までの教育及び生涯学習に係る施策と主な取組

第2章第1節 千葉県教育の課題と取り組むべき視点(基本構想編)

- (1)人口の地域間格差と少子高齢化 (2)急速な社会変化への対応 (3)経済・雇用情勢への対応
(4)多様なニーズに対応した教育 (5)質の高い教育を行う学校体制の充実 (6)学校・家庭・地域の連携・協働

第2章第2節 千葉県教育の目指す姿(基本構想編)

本県教育をめぐる現状や課題等を踏まえ、教育政策の根本となる基本理念を掲げ、この理念の下、3つの基本目標と本県教育の目指す姿を示す。

【基本理念】 **人生をしなやかに切り拓き、千葉の未来を創る「人」の育成**
～一人一人が可能性を最大限に伸ばし、自分らしく活躍するために～

【基本目標・目指す姿】 基本理念を実現するための3つの基本目標と、千葉県教育の10年後のあるべき姿

基本目標 1 子供たちの自信を育む教育の土台づくり

- ・校務DXを通じた働き方改革や業務改善の見直し、外部人材活用による「チーム学校」づくりの推進が図られている。
- ・教職員が心身ともに健康でやりがいを持ち、子供が学ぶ意欲を高める魅力的な教育環境が整っている。
- ・優れた資質を有する教員の採用が進み、教員が高い使命感を持ち、指導力向上に取り組んでいる。
- ・いじめ、不登校、児童虐待、ヤングケアラー、子供の貧困など、誰一人取り残されない教育環境の整備が進んでいる。
- ・教職員が自らの言動が児童生徒の成長に大きな影響を与える責任を自覚し、職務の遂行に専念することで児童生徒等から信頼を得ている。
- ・互いの多様性を認め合い、一人一人の可能性を最大限伸ばす教育が実現している。

基本目標 2 未来を切り拓く「人」の育成

- ・未来を切り拓くための知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度が育っている。
- ・デジタル機器教材が日常的に活用されている。
- ・自他の生命と尊厳を大切にす豊かな人間性と道徳性が育成されている。
- ・学校・地域社会・産業界等が連携協働したキャリア教育支援体制が構築され、社会に求められ活躍できる人材が育成されている。
- ・探究・STEAM教育や魅力ある文理融合的な学びが推進され、性別に関わらず新たな技術や価値を創造する人材が育っている。

基本目標 3 地域全体で子供を育てる体制と 全ての人が活躍できる環境づくり

- ・コミュニティスクールと地域学校協働活動が一体的に機能し、保護者や地域住民が責任をもって学校運営に参画している。
- ・ICT活用の効果的な活用等により、学校・家庭・地域のつながりや関わりが生まれ、協力し合える土壌がつけられている。
- ・地域や外部の人材の協力を得て、部活動の地域展開が図られている。
- ・障害の有無や年齢等に関わらず、誰もが文化芸術を実践・鑑賞できる環境が整備されている。
- ・県民が各ライフステージに応じた多様なスポーツに親しみ、心身ともに健康で活力ある生活を送っている。

第3章第1節 施策横断的な視点(実施計画編)

◇基本理念の実現に向け、本計画に位置付けた施策を着実かつ効果的に推進するためには、社会全体で包摂性を重視し、誰もがその人らしく力を発揮できる環境の整備や学校・地域風土の醸成を図るとともに、学校においては、校務省力化や教育の質の向上等のためのDXの推進、人口減少の中にあっても、社会や地域に求められる人材の育成などに向け、行政・教育関係者、産業界、県民が一体となり、オール千葉県で取り組むことが必要である。このことから、未来の千葉県教育を築いていくうえで欠かせない3つの施策横断的な視点を以下のように掲げて取り組む。

多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会の形成を通じたウェルビーイングの実現

教育デジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進

産業と教育との連携強化による人材育成

基本目標
1

子供たちの自信を育む
教育の土台づくり

施策1 優れた教員の確保と教育の質の向上

- (1) 熱意あふれる人間性豊かな教員の採用
 - ・奨学金返還緊急支援
 - ・採用プロモーションの展開
- (2) 信頼される質の高い教員の育成
 - ・教育相談に関する教員の資質向上研修
- (3) 「チーム学校」の実現と働きやすい勤務環境の整備
 - ・外部人材の活用(SC・SSW・SL・SSS・副校長等マネジメント)
 - ・教育DX(県立学校会計ソフト・業務改善DXアドバイザー)
 - ・県教育庁統一ダイヤルによるワンストップ対応

施策3 共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進

- (1) 柔軟で連続性のある「多様な学びの場」と支援の充実
 - ・特別支援学校の過密化対策
- (2) 早期からの教育相談と支援体制の充実
 - ・卒業後の豊かな生活に向けた支援

施策2 安全・安心で魅力ある学校づくり

- (1) 地域に支持され選ばれる魅力ある学校づくり
 - ・職業系専門学科・コースの充実
 - ・水産系高校の活性化
- (2) 私立学校の振興と公立学校・私立学校の連携
- (3) 安全・安心な学びの場づくりの推進
 - ・県立学校体育館空調、トイレ改修、エレベーター設置
 - ・防災教育の推進

施策4 多様なニーズに対応した教育の推進

- (1) 不登校児童生徒の状況に応じた支援の推進
 - ・ICTを活用したオンライン授業配信(エデュオプちば)
 - ・フリースクール等との連携・支援
- (2) いじめへの対応
- (3) 学び直しなどの再チャレンジの機会の充実
- (4) 経済的・家庭的理由など様々な困難への支援
 - ・スクールソーシャルワーカーの配置・福祉関係機関との連携
 - ・公立学校の給食費無償化(第3子以降)
- (5) 外国人児童生徒等の受入体制の整備
 - ・日本語指導を含む、きめ細かな支援
- (6) 相互の多様性を認め合う学校風土の醸成

基本目標
2

未来を切り拓く「人」の育成

施策5 人生を主体的に切り拓くための学びの確立

- (1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 - ・文理の壁を越えた教科横断的・探究的な学習
 - ・小学校専科非常勤講師
- (2) 「読書県ちば」の推進
- (3) 外国語教育の充実
- (4) ICT利活用の日常化
 - ・企業、大学等と連携したデジタル人材育成

施策7 人格形成の基礎を培う幼児教育の充実

- (1) 幼児教育の質の向上
 - ・ちば・うみやま保育の普及促進
- (2) 小学校教育との接続の円滑化
 - ・幼保小のカリキュラム接続の促進

施策9 生涯をたくましく生きるための健康・体づくりの推進

- (1) 生涯にわたって運動・スポーツに親しむ資質・能力の育成
- (2) 学校保健の充実
- (3) 食育の推進
 - ・地場産物を取り入れた学校給食を活用した食育

施策6 郷土と国を愛する心とグローバル化への対応能力の育成

- (1) 郷土と国の歴史や伝統文化等の学びの推進
- (2) 国際社会の担い手の育成
 - ・日本人としての役割を意識し、世界で活躍できる人材の育成

施策8 豊かな心の育成

- (1) 豊かな情操や道徳心を育む教育の推進
 - ・発達段階に応じた道徳教育、情報モラル教育
- (2) 児童生徒の自殺対策の推進
 - ・スクールカウンセラーの配置及び資質向上研修
 - ・SOSの出し方教育
- (3) 体験活動等の推進
 - ・持続可能な開発のための教育
- (4) 子供の権利擁護
 - ・子供の意見表明
 - ・主権者教育、消費者教育等

施策10 学びを将来へつなぐ体系的・実践的なキャリア教育の推進

- (1) 学校におけるキャリア教育の推進
- (2) 社会に求められる産業人材の育成
 - ・産業界等と連携協働した産業人材の育成
 - ・アントレプレナーシップ教育
- (3) 障害のある生徒の自立・社会参加の支援

基本目標
3

地域全体で子供を育てる体制と
全ての人が活躍できる環境づくり

施策11 家庭教育への支援と家庭・地域との連携・協働の推進

- (1) 家庭教育への支援
 - ・企業、NPO等、様々な主体の参画による支援体制づくり
- (2) 地域全体で子供を育てる体制の構築
 - ・学校と地域を結ぶ地域コーディネーターの育成・配置
- (3) 虐待など不適切な養育から子供を守る取組の充実・強化
 - ・児童虐待に係る教員の対応力の向上
 - ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールリーダーとの連携
 - ・相談窓口の充実

施策13 文化芸術・スポーツの推進

- (1) 文化芸術にふれ親しむ機会の充実
 - ・障害の有無、性別等に関わらず、文化芸術を享受できる機会の創出
- (2) 「知る」から広がる「する・みる・ささえるスポーツ」の推進
 - ・各ライフステージに応じた多様なスポーツの日常化

施策12 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

- (1) 多様な学習機会の充実
- (2) 学習に関する情報提供・相談の充実
- (3) 学習成果を社会に生かす仕組みづくり
- (4) 多様な主体との連携・協働の推進
 - ・社会教育主事の適正配置、社会教育士の育成・活用
- (5) リカレント教育の推進
 - ・社会に求められる産業人材の育成
 - ・中小企業のリスキリング支援
- (6) 障害のある人の生涯学習の推進

【基本目標2】未来を切り拓く「人」の育成

施策5 人生を主体的に切り拓くための学びの確立

《目標》

子供の学習意欲を高め学力向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育成します。

＜現状と課題＞

現代は将来の予測が困難な「VUCA」の時代と言われています。このような時代には、子供たちが柔軟な学び方や考え方、変化に対応する力と態度を身に付け、個々の能力や可能性を最大限に引き出していくことが重要です。そのためには、子供たちが自分自身の良さや可能性を認識し、他者を尊重し、協力しながら、自分の人生を切り拓いていける力を育成していく必要があります。

千葉県教育委員会では、令和2年度から「ちばっ子『学力向上』総合プラン(学びの未来づくりダブル・アクション+ONE)」をスタートさせ、「自ら課題を持ち、多様な人々と協働し、粘り強くやりぬく子」と「子供と社会の変化を捉え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、授業を工夫する教員」を目標に、子供たちの学ぶ意欲を高め、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進し、児童生徒の学力向上に取り組んできました。

これからも、基礎的な知識や技能を確実に身につけさせ、思考力や判断力、表現力などを育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし、多様な人々との協働を促す教育の充実が求められます。

また、子供たちの資質や能力を育むために、読書は非常に効果的です。全ての子供たちが文字・活字文化の恩恵を受けられるよう、社会全体で読書活動を推進することが必要です。

さらに、グローバル化が進展するなかで、異なる言語や文化を持つ人々と協力していくためには、郷土を愛する心や誇りを持ち、外国語でも自信を持って意見を述べ、他の人々と交流・共生する力を育成することが必要です。

そして、児童生徒が1人1台端末を持つ教育環境の下、ICTを活用しながら個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組むことが重要です。

[取組の基本方向]

子供たちの学習意欲を高め学力向上を図る取組を重点的に進めるとともに、探究学習やSTEAM教育等の教科横断的な学習の充実を図ります。また、社会全体で子供の読書活動を推進する体制を整備するほか、外国語教育の充実、情報活用能力（情報モラルを含む）の育成のため、ICTの日常的な利活用を促進します。

〔主な取組〕

(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- 各学校段階を通じて子供たちに基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、幅広い知識と教養、専門的能力、職業実践力を育成していくため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を一層推進します。
- 未来につながる確かな学力を育むため、子供自身が、学び方を学び、自らの学習上の課題を正確に把握し、目標を立て、その達成に向けて努力する（自己調整力を高める）ための効果的な学習活動を支援します。
- 文理の壁を越えた知識・能力を備えた人材を育成するため、児童生徒の発達段階に応じて教科横断的・探究的な学習を推進します。
- 授業や放課後の教育活動を支援するため、退職教員や保護者、大学生など多様な地域人材や産業界との連携・協働を進めます。

- ・研修体系に基づく教職員研修の充実 <再掲>
- ・先進的教育活動による学ぶ意欲の向上
- ・小学校専科非常勤講師等の配置
- ・きめ細かな指導体制の整備
- ・児童生徒の体験学習等の推進 <再掲>
- ・全国学力・学習状況調査の分析と活用
- ・探究・STEAM教育等の教科等横断的な学習の充実
- ・個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実を図る単元開発・授業改善に向けた取組の推進
- ・博物館・美術館や文化財等を活用した学習支援
- ・千葉のフィールドミュージアム等を活用した体験活動

(2) 「読書県ちば」の推進

- 全ての子供が、読書に親しみながら成長していく「読書県ちば」を目指して、「千葉県子どもの読書活動推進計画」に基づき、学校における読書活動や、家庭・地域における読書活動を推進するための支援等を積極的に行い、多様な子供の読書機会の確保を進めるとともに、公立図書館等と連携しながら必要な人的・物的環境整備を進めます。
- 市町村立図書館のサービスや学校図書館ネットワークの充実を様々な形で支援するとともに、図書館未設置市町村に対して、図書館設置の意義について理解を求めるなど、県内全体の読書活動の充実に努めます。
- 電子書籍の活用やデジタル社会に対応した読書環境の整備を進めます。
- 「千葉県読書バリアフリー推進計画」に基づき、視覚障害者や発達障害、肢体不自由等で活字による読書が困難な人等の読書環境の整備を進めます。

- ・子供の読書活動の理解の促進
- ・家庭や地域における読書の啓発 <再掲>

- ・読み聞かせボランティア等の人材育成
- ・朝読書や音読、N I E、調べ学習等の推進
- ・司書教諭の適正配置の促進と研修の実施
- ・学校図書館の蔵書の充実
- ・千葉県資料や県民の役に立つ資料・情報の蓄積・提供 <再掲>
- ・県立図書館の機能の充実 <再掲>

(3) 外国語教育の充実

- 授業の質の向上、児童生徒の英語力・学ぶ意欲の向上、教員の英語力・専門性の強化のための各種研修を実施し、外国語を使ったコミュニケーションを楽しみ、自分の考えなどを主体的に発信する力のある児童生徒を育成します。
- 外部検定資格等の実績に基づく教員採用選考の実施や、小学校教員の英語免許の取得を促進し、専門性の高い教員を確保し配置します。

- ・A L T及び外国語担当教員の指導力向上研修の実施
- ・小学校の英語教科化に対応した専門性の向上
- ・高い語学力のある教員の確保
- ・I C Tの一層の活用促進による言語活動の充実

(4) I C T利活用の日常化

- 児童生徒が、1人1台端末を日常的に活用し、I C Tを新たな学びのツールとして適切に活用できるようにするため、教員の指導力の向上を図るとともにI C Tの活用を前提とした授業の再構築を図るなど、教育の質を向上させます。
- 児童生徒の発達段階を考慮し、その能力、特性等に応じた教育が実現できるよう、情報活用能力の育成を目指したカリキュラム・マネジメントを行い、児童生徒の学ぶ意欲を引き出し学習成果の向上につなげます。
- 端末の持ち帰りを推進し、家庭等でも日常的に端末を活用した学習の機会を増やします。
- 全校種における教育用コンピュータや校内W i - F i等のI C T環境の整備・更新を進めます。

- ・各学校段階における情報活用能力育成のための体系表を活用した授業改善の推進
- ・プログラミング教育、高等学校の教科「情報」の指導の充実
- ・地域、大学、企業等と連携したデジタル人材育成のための体制の構築
- ・1人1台端末等を活用した家庭学習の推進
- ・I C Tを活用した教育の推進に向けた情報インフラ等の整備
- ・特別支援教育におけるI C Tを活用した教育の推進

明日からの指導に役立つ **令和7年度版**
CHIBAの学力向上施策一覧

千葉県教育庁
 教育振興部学習指導課



～学力向上アクセスシート～

教員の授業改善推進事業			Coaching
「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム	達人の授業解説動画(小・中) <small>限定公開のため 令和7年3月21日付け 教学指第1921号参照</small>	授業づくりコーディネーター(小・中)	
全国学力・学習状況調査に係る分析シートの活用促進(小・中)	指導力の向上	学力向上通信COMPASS(小・中)	
英語パフォーマンステスト実践事例集	教科等横断的な学習指導事例(小・中)	ちばっ子の学び変革推進事業/学力向上交流会(小・中)	

子供たちの主体的な学び促進事業			Assist
ちばっ子チャレンジ100(小)	ちばのやる気学習ガイド(中)	家庭学習のすすめ(小・中)	
家庭学習用TIPS動画(小)	学習意欲向上への支援	優良・優秀学校図書館の認定	
科学の甲子園ジュニア(中) 科学の甲子園(高)	海外姉妹校等への生徒派遣事業(高)	ヒブリオバトル(高)	

魅力ある専門分野の人材活用事業			Human resources
専科非常勤講師等の配置(小)	塾講師・特別非常勤講師等の活用(小・中)	学習サポーターの派遣(小・中)	
外国人児童生徒等教育相談員の配置	人材の積極的活用	外国語指導助手(ALT)等の配置(高)	
SSHコーディネーターの配置(高)	STEAM教育講師の派遣(高)	探究学習等における地域人材の活用	

～自ら学ぶ子供たち～

- 学びへの意欲をもつ子供
- 思考力・判断力・表現力をもつ子供
- コミュニケーション能力と協働性をもつ子供
- 目標に向かって挑戦する力をもつ子供

研修体系に基づく研修の充実事業			Brush up
キャリアステージに応じた悉皆研修	各専門分野等の推薦研修(長期研修含)	各自の目標・課題意識に合わせた希望研修	
研修履歴を活用した能動的研修	教員の研修	職種別の研修(校長/教頭/養護教諭等)	
大学・民間企業と連携した研修	所属校の課題等に合わせた校内研修	実践モデルプログラムを活用した授業改善	

グローバル化への対応 個に応じた学びの推進事業			ICT
GIGAスクール通信Edulution	ICTを活用した「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム(小・中)	各市町村イチオシ!の活用方法(小・中)	
学びの未来デザインシート活用(小・中)	ICT活用による学習の充実	AI英会話学習支援システム(中・高)	
ワークショップハッカソン(高)	ICTが効果的に活用されていた学習事例学習ポータルサイト(高)	DX加速化推進事業(高)	

個別最適な学び
協働的な学び

5 (1) 資料

平成7年度 学力向上施策 おもな取組

☆H7「いちばん星」に掲載

○「C」Coaching：指導力の向上

＜教員の授業改善推進事業＞

☆「ちばっ子の学び変革」推進事業研究指定校の取組

- ・文科省の講師を招聘しての「個別最適な学びと協働的な学び」に関する研修会の実施
(研究指定校・指導主事対象)

☆学力向上交流会（葛南・東葛飾・北総・東上総・南房総の各教育事務所による運営）

- ・学力向上施策の説明動画の配信

☆「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの周知とその活用

☆全国学力・学習状況調査に係る分析シート活用促進

☆令和7年度千葉県学力向上通信「COMPASS」の発行

- ・県教育委員会指導主事等による学校訪問（計画訪問等）

○「H」Human resources：人材の積極的活用

＜魅力ある専門分野の人材活用事業＞

☆千葉県学習サポーターの派遣

☆小学校専科非常勤講師等の配置

☆SSHコーディネーターの配置

☆STEAM教育講師の派遣

○「I」ICT：ICT活用による学習の充実

＜グローバル化への対応・個に応じた学びの推進事業＞

☆GIGAスクール通信の発行

☆AI英会話学習支援システム

☆ちばっ子学びの未来デザインシート活用

○「B」Brush up：教員の研修

＜研修体系に基づく研修の充実事業＞

☆各種研修事業（千葉県総合教育センター）

○「A」Assist：学習意欲向上への支援

＜子供たちの主体的な学び促進事業＞

☆ちばっ子チャレンジ100 ちばのやる気学習ガイド

☆科学の甲子園ジュニア（中学校）科学の甲子園（高等学校）

○その他

- ・学力向上施策アンケートの実施（県内すべての公立小・中・高等学校、特別支援学校）

令和7年度 委員による学力向上事業の視察 記録まとめ

(○：事業の意義が感じられた点 ・：意見、課題、その他)

C：学力向上交流会

- 全体会は、発表した4校とも地道で確実な研究活動を進めていることが伺えた。来年度の本発表に向け、データを集積しつつ実践を積み重ね、「子どもの姿」「教員の姿」で成果を示していただけることを願う。
- 分科会では、参加者の率直な疑問質問・考え・意見のやり取りが行なわれていて、好ましかった。
- 「学力」のとらえ方が各学校で違っている中での、「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての取組の交流であったので、様々な取組が発表されていた。
- 「ちばっ子の学び変革」推進事業の実施校の発表についての提案だった。各学校とも学校の実態を把握し、課題解決のために研究を進めていた。「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学び」を意識的に学習に取り入れ、学校の教育活動全体、また、教科横断的な取組が見られた。
- テーマごとに分かれてのグループ協議だった。各学校の実態や課題、取組を共有し、自校の取組にいかすことができたと思う。
- 指導室長のお話については、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の核となる部分を端的にまとめて、ご指導いただいたので、参加した先生方が各校で共有していけば、授業改善にもいかされるのではないかと思う。
- 全国学力・学習状況調査の結果をもとに管内の学校の課題を見出し、共通の認識を持って授業改善に取り組むことは意味のあることだと感じた。
- 分科会では生徒の実態に合わせた各校の工夫した取組を共有し、自校の抱える課題について他校の取組からヒントを得ようとする様子が見えた。
- 習熟度別指導の際、単元前にプレテストを実施したうえで子供達自身に判断させるなど、保護者・生徒が納得できる形にするために各校の先生方が非常に配慮されていることが特に印象に残った。
- 生徒に達成感を味わわせつつ、基礎力の定着を図り、かつ学びを広げる小学校、中学校の取組の先に高等学校教育があるのだということを改めて感じた。
 - ・開会行事（所長挨拶）が機器不具合でうまくいかなかったのが残念。
 - ・例えば、ペーパーテストで測ることができる、いわゆる狭義の「学力」向上に視点をおいて取組を発表している学校もあれば、外側からは見えにくい、子どもの内面的な主体的な学びに向かう力を「学力」と捉えた取組を発表している学校もあった。
 - ・これが「特別な場」ではなく、日常的な「井戸端会話・会議」的に行われるように環境を整えていくことができればと思う。参加している各学校の「代表教員」ばかりでなく、関心を持つ教職員ならば誰でも参加できる（参加までいかずとも視聴できる）ような方向性ができないか、と以前（自分自身が現職の頃）から考えている。

- 例えば、①「各学校で、分科会で取り上げてほしいテーマを絞ってもらって報告」というより、各学校からは「所属教職員各人から『日頃悩んでいること』『自分が力をつけたい・伸ばしたいこと』を挙げてもらったものをそのまま一覧で報告」する「自由記述アンケート」の形で集める。②集まったものを「キーワード整理」して、ニーズが多いものや、数は少ないけれど（教育事務所が）重要と考えるものを数多く「分科会テーマ」として設定する。③各学校の全教職員に「参加（視聴）分科会の希望」を取って人数把握する。④当日は参加（視聴）希望者には「研修」として時間確保・保証する。といった方法も考えられるのではないか、と思う。
- 今回参加した方々は、教務主任や研究主任など、学校運営の中核的な存在であるので、この交流会で得た学びを自身に留めず、ぜひ校内で共有し、各学校の実践に生かしてもらいたい。
- 交流会や研修会を開催する際には、「交流や対話だけ」に留まらず、「交流や対話の成果（得た学び）を校内へ広げる」ことを最終目的とした、主催者側の意図的な戦略が必要だと感じた。
- 研究校の発表をもう少し聞きたかったという声もあったので、各校の発表時間を増やし、質疑応答の時間を設けるのも一つだと感じた。
- 「学力向上」のために、教師の「授業力の向上」が不可欠である。また、授業が学級という集団で行われる以上、「学級経営力」も必要になるし、生徒理解や生徒指導の力も必要になる。つまり、教師の力を向上していくための手立てや研修も必要ではないかと思う。
- 成果も上がっているという報告を受けたが、一番大切なのは、先生方が研修を行い、意識をもって同じ方向を向いて教育活動にあたっていることではないかと思う。
- 研究校になることは大変な部分も多いが、教師力や授業力の向上の一助となるので、残りの期間もご尽力いただきたいと思います。
- 各校の実態や課題については、予想される内容であったり、共通する内容であったりした。つまり「そうだろうな」という回答も多かったので、本来であれば、効果的な取組をもっと共有するか、グループ協議の内容について、助言・指導をいただく時間がもう少しあっても良かったのではないかと思う。

H：学習サポーターの派遣事業

- サポート教室での受講が、授業ごとに生徒自身の希望制ということで、利用しやすく、意義ある取り組みだと思った。
- 学習サポーターの先生の「1人1人の様子を見ながら声をかけ、『誰も見捨てていないんだよ』と安心してもらうことを前提に取り組んでいる」という言葉は、とても大切である。
- 生徒数が多い学校ほど、不安を抱えていることを先生や周囲に気づかれず、言い出しにくい生徒がいる可能性もあるので、こうした大規模校でもぜひ進めていただきたいと思います。
- T. 1の教科担当の先生が学習を進め、その間、学習サポーターが机間指導でつまづいている生徒への支援を行っていた。

- T. 1の教科担当の先生と学習サポーターが、生徒に関わった回数は、参観していた時間だけでも、それぞれ30回以上は関わっていたのではないかと思う。
- 机間指導の内容は、つまずきに対する支援、見守り等が行われていた。
- 生徒は自分のペースで問題を解いたり、友人に質問したり、周囲で確認をしたり様々な学習方法をとっていた。
- 3年生ということもあり、今までの学習の積み重ねの成果だとは思いますが、個別最適な学びと協働的な学びが1時間の中で見られた柔軟な授業展開だったのではないかと思う。
- 先生方と生徒との人間関係、日頃の学級経営、学年経営、学校経営の積み重ねを感じた。
 - ・サポートの中身の手法は授業ごとに違うとは思いますが、授業の前後に生徒が個別に疑問点を確認できる時間があると、なお安心である。
 - ・3年生の数学科の授業を参観させていただいた。教科担当と学習サポーターのT. Tという授業形態であった。

H：小学校専科非常勤講師等配置事業（理科）

- これまで小学校での勤務経験がない方だったが教材研究を入念にされ、理科の授業を行っていた。
- 児童の興味を引くように実際の植物の根を見せたり、動画を視聴させたりと工夫されていた。難しい電子黒板の操作もスムーズに行っていた。
 - ・教材研究の時間や電子黒板の研修などについての情報共有が行われていなかった点を改善し、教員未経験者がすぐに授業ができるような体制づくりが必要だと感じた。
 - ・授業時に教員が話すだけになってしまったり、板書したものを書くのかどうか児童に伝わらず児童が間延びしている場面が見られたので、気づいたことをノートに書かせたり、発表させたりしてもよかったのではないかと思った。

H：小学校専科非常勤講師等配置事業（算数）

- 算数科における小学校専科非常勤講師等の配置は、学力向上に大いにつながる事業だと思う。
- 視察先の小学校では、3年生と4年生に1名ずつ配置されており、とても手厚いと感じた。
- 単独学年に配置することにより、教材研究や資料作成、補助教材作成等すべてをお任せすることができ、担任の立場からも心強いと思う。また、授業中は机間巡視をしながら理解が不十分な児童に付いて指導されており、学力向上・意欲向上につながると感じた。
 - ・現状、担任の先生方は放課後にならないと時間が取れない、講師の先生方はお昼で勤務が終了になる、その中で効率的な打合せの仕方を考えなければならないと感じた。
 - ・勤務体系を見直し、月に2回程度打合せの時間を放課後等に設定できると担任と講師がスムーズに連携が取れるのではないかと思う。
 - ・勤務時間の関係で、打合せ時間の確保が難しいとのことでした。よりよい授業展開をする上で、打合せは必要不可欠だと思う。

H：スーパーサイエンススクールコーディネーターの配置事業

- どの生徒も、自らが設定した研究テーマの中で、さまざまな困難に直面しながら、教員の手助けを得ながら、1つ1つ課題を解決していた。
- ・理数科の高校生が、生物、化学、物理の各テーマに分かれ、個人やグループに分かれて、各自が決めたテーマに関する探究を行っていた。例えば、生物ではプラナリアの学習能力について調べている生徒がいた。また、物理では、野球部の生徒がアッパースイングで飛距離を伸ばす最適な角度を計算して出そうとしていた。さらに、おもちゃの鉄砲から飛び出す玉の初速と終速を何とかして測定しようと四苦八苦している生徒もいた。
- ・指導している教員によると、探究の授業では、ルーブリック評価を用いて、「なぜその評価になっているのか」を、教師が生徒に説明しながら、評価しているが、まだ完成形ではなく、より良い評価方法がないか常に模索しているとのことであった。

H：STEAM教育講師の派遣事業

- 国際ドローン協会から、ドローンについての講義やドローンの飛行を実際に見学し、生徒達も非常に熱心に参加していた。
- ドローンが飛んだ時には歓声があがり、特にとっても盛り上がっていた。
- 視察した高校は学生の未来についてよく考えるとともに、地元の企業との関わりを大切にしたSTEAM教育を進めているように感じた。

I：AI英会話学習支援システムの活用実践研究校

- 授業は非常によく練られていて、生徒も飽きることなく最後まで受けていた。
- 特にリフレーズ、パラフレーズという Speaking 力向上に重要な取り組みを軸に据えたペアでの活動（生成AIによる英語と絵の変換等）が印象的だった。
- 授業内でのAI学習システム活用は画期的と感じた。
- AI英会話学習システムは非常に有効だと感じた。
- 個別学習のため生徒は臆せずスピーキングに取り組むことができ、全ての生徒が当たり前と同様のシステムを利用できれば英語教育は格段に変わらと思う。
- お題を英語で説明して相手に当てさせる軽いゲーム感覚のエクササイズを少しずつ難易度を上げながら重ねていく授業構成が素晴らしく、生徒は終始飽きずに学習を楽しんでいた。
- 画像生成AIを活用した「即興性」向上のためのスピーキング練習は、学習支援システムとは別にAIを活用した学習の幅を広げるものとして新鮮だった。
- 随所に挟み込まれる雑学（「時計」から右回りを英語で何と表現するか）等も生徒の好奇心を十分刺激するものだった。
- ・授業者が組み立てられた授業の流れが非常によく、その内容とAI英語システムを接続することの難しさを感じた。
- ・AIシステムを活用する目的がアウトプット機会を授業内に創るという観点だと、現在の授業でも十分成し遂げられている。

- ・ AIシステムが1:1である分、ペアでの活動に比べ発話量が多いが、学校（多様な方と共に学ぶ場）でその時間を捻出する意味を見出すことの難しさも感じる。
- ・ レッスンで扱った内容をパーソナライズする形でのアウトプットでしたら、定着にも繋がるので良いと感じる。

A：科学の甲子園

- 「始めと終わりは明確な形で行うのがよい」と考えているため、本年度のように開会式を行う形はよいと思う。
- 筆記競技も今回のような大ホールで行う形がよいと思う。
- 昨年度に比べて格段に難易度が上がったように思うが、マジックハンドのアームの長さやカプセルに入れるビー玉の数等、戦略的要素の幅があるのが興味深かった
- 実際のチャレンジは会場を移したことで、各チームの動きに集中でき、よかった。
- チャレンジの様子を撮影されているのも臨場感があった。
- ・ 1階の大ホールに投影するなど、観客への見せ方にも工夫して大会自体を盛り上げれば更に裾野が広がり、科学に興味を持つ子供たちが増えるのではないかと思った。
- ・ 可能であれば、さらに多くの学校・生徒が参加して、午前の筆記競技・午後の実技競技とも全体が一堂に集まる形で行うことができればと思う。
- ・ 県総合教育センター会場だとどうしてもキャパが厳しい。別会場を使用することを真剣に考える必要があるのではないか。（例えば、県教委と連携協定を結んでいる大学の施設を借用するとか）
- ・ 繋いだ手のみの非言語コミュニケーションまで求められ、少々盛り込み過ぎの感もあったように思う。

5(4) 資料

令和7年度 学力向上施策アンケート 考察用集計表(肯定的回答まとめ)

令和7年12月

(質問1)

児童・生徒に対して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を意識して指導に取り組んでいますか。

肯定的回答	教職員個人回答				学校代表回答		
	全体	小学校	中学校	高等学校	小学校	中学校	高等学校
よくあてはまる	24%	24%	24%	27%	36%	32%	23%
ややあてはまる	68%	69%	68%	64%	60%	65%	70%
計	92%	93%	92%	91%	96%	97%	93%

(質問2)

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を活用した授業改善に取り組んでいますか。

肯定的回答	教職員個人回答				学校代表回答		
	全体	小学校	中学校	高等学校	小学校	中学校	高等学校
よくあてはまる	15%	14%	16%	18%	34%	26%	9%
ややあてはまる	61%	62%	62%	53%	59%	61%	57%
計	76%	76%	78%	71%	93%	87%	66%

R6 学校代表回答		
小学校	中学校	高等学校
35%	27%	10%
60%	65%	65%
95%	92%	75%

(質問3)

授業で「自分の言葉で学習のまとめを書く」場面を意図的に設定するように取り組んでいますか。

肯定的回答	教職員個人回答				学校代表回答		
	全体	小学校	中学校	高等学校	小学校	中学校	高等学校
よくあてはまる	29%	27%	36%	28%	47%	45%	25%
ややあてはまる	47%	48%	44%	45%	49%	51%	65%
計	76%	75%	80%	73%	96%	96%	90%

R6 学校代表回答		
小学校	中学校	高等学校
45%	35%	24%
54%	63%	71%
99%	98%	95%

(質問4)

家庭学習(課題等)に個別最適な学びを取り入れた工夫をしていますか。

肯定的回答	教職員個人回答				学校代表回答		
	全体	小学校	中学校	高等学校	小学校	中学校	高等学校
よくあてはまる	9%	10%	7%	9%	15%	7%	
ややあてはまる	41%	42%	36%	40%	59%	52%	
計	50%	52%	43%	49%	74%	59%	

R6 学校代表回答		
小学校	中学校	高等学校
15%	9%	
59%	49%	
74%	58%	

進めよう、広げよう！！

「思考し、表現する力」を高める

実践モデルプログラムを

活用した授業改善



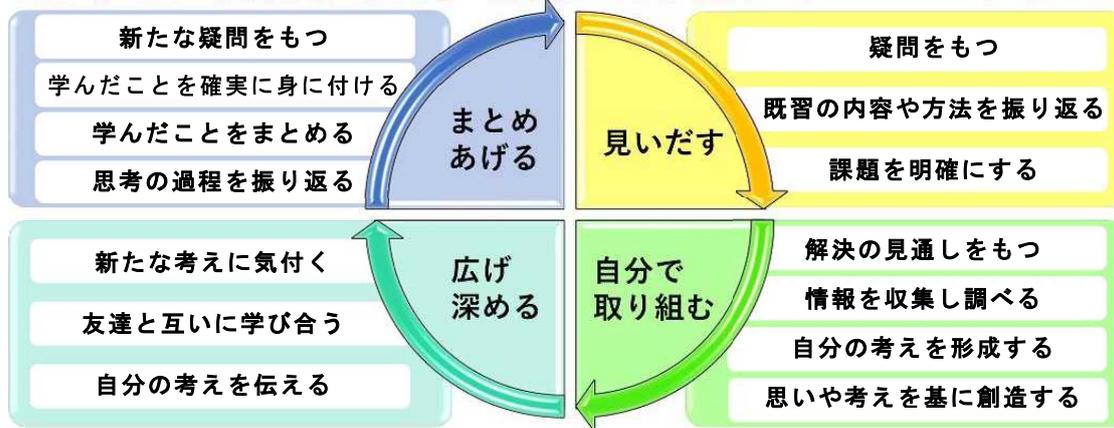
千葉県教育委員会



check

千葉県マスコットキャラクター
「チーバくん」

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



学習指導要領においては、各教科の指導に当たって、児童生徒に育成すべき資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められます。

千葉県教育委員会は、「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の内容に「主体的・対話的で深い学び」の視点を加えることで、授業改善の推進を図ることといたしました。

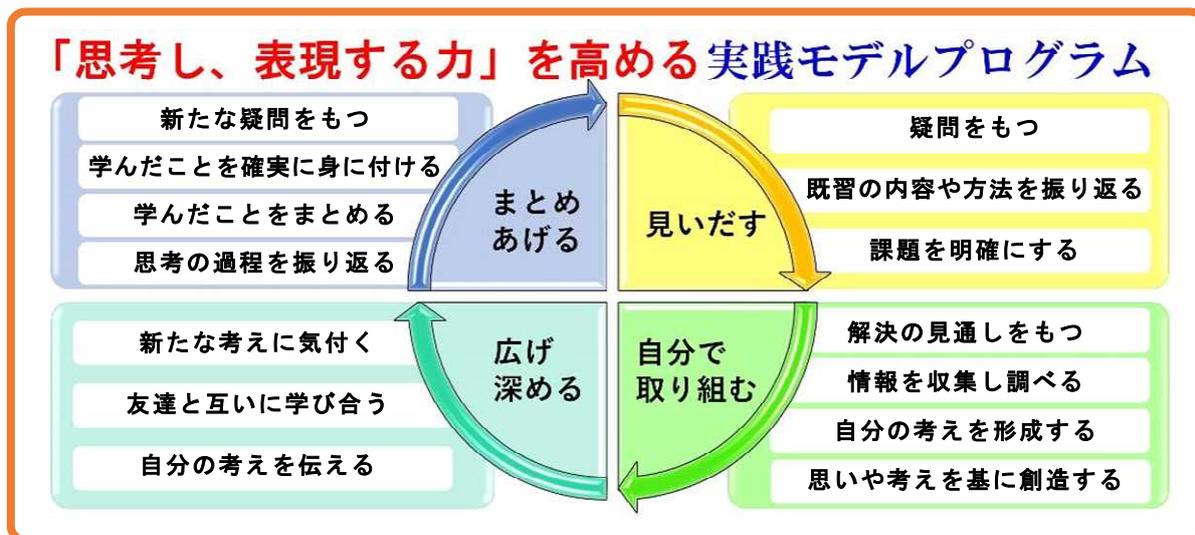
本プログラムは「モデル」であり、自校の学習指導過程と照らし合わせるなど、授業改善を行うための参考資料として活用してください。

千葉県の授業改善「キーワード」

「自分の言葉で学習のまとめを書く」



3 実践モデルプログラムの四つの過程



まとめあげる

思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる過程です。「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考えることで、学んだことを確実に身に付けるとともに、新たな疑問をもち、次の学習への更なる意欲や見通しにつなげる過程です。

見いだす

今までの学習内容や提示された資料等を基に疑問をもち、本単元（本時等）で解決していく課題を明確にする過程です。また、「これからの学習がどのような意味をもち、何を目指しているものなのか」等を意識しつつ、主体的に学習に取り組もうとする過程です。

広げ深める

「見方・考え方」を働かせながら自分の考えを伝え、友達のことを聞いて疑問点を問い直すなど、互いに学び合うことを通して、多様な考えを理解する過程です。また、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな考えに気付いたりすることを通して、より質の高い学びとする過程です。

自分で取り組む

解決の見通しをもち、自分で考え、粘り強く課題に取り組む過程です。また、「見方・考え方」を働かせながら、収集した情報を調べたり、自分の考えを形成して文章や言葉、図、式等で表現したり、自分の思いや考えを基に作品等を創造したりする過程です。

※「見方・考え方」とは、「深い学び」の鍵となるものであり、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、教科等ならではの物事を捉える視点や考え方のことであり、教科等を学ぶ意義の中核をなすものです。

「実践モデルプログラム」は、毎時間その全てを行うことを推奨するものではありません。毎時間全てを行うと、かえって形式的な授業となってしまう可能性があります。1 単位時間で行う場合もあれば、複数時間で行う場合もあり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した上で行います。

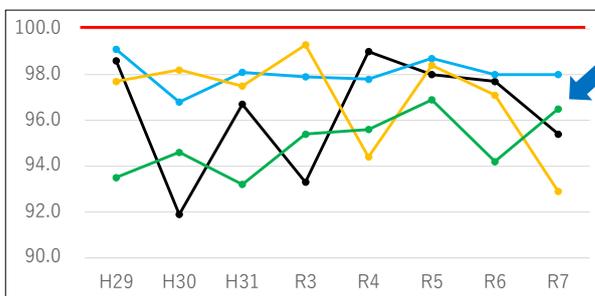
大切なことは、単元計画や授業計画に意図的・計画的に「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」を位置付けることです。

全国学力・学習状況調査の結果等について

記述式問題の平均正答率

全国平均を100とした場合

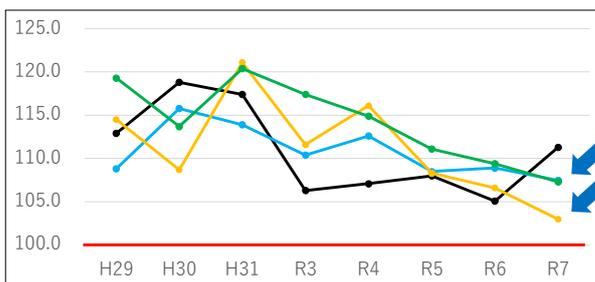
- 小学校・国語
- 小学校・算数
- 中学校・国語
- 中学校・数学



記述式問題の無解答率

全国平均を100とした場合

- 小学校・国語
- 小学校・算数
- 中学校・国語
- 中学校・数学



3

全国学力・学習状況調査の結果等について

1 探究的な学び

【学校質問25】

調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

〈肯定的回答をした学校の割合〉

千葉県	R5	R6	R7	R7 全国
小学校	81.9%	84.5%	85.1%	89.3%
中学校	83.2%	84.9%	85.3%	88.2%

2 ICTを活用した学習状況（ICTの活用頻度）

【学校質問58】

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

〈「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した学校の割合〉

千葉県	R5	R6	R7	R7 全国
小学校	83.5%	84.8%	94.1%	96.6%
中学校	80.5%	83.8%	87.5%	94.5%

4

3 児童生徒の学習時間

【児童生徒質問17】

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

〈「30分より少ない」「全くしない」と回答した児童生徒の割合〉

千葉県	R5	R6	R7	R7 全国
児童	17.5%	19.8%	21.4%	18.6%
生徒	15.7%	16.7%	18.8%	19.0%

4 調査結果の活用

【学校質問83】

令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

〈肯定的回答をした学校の割合〉

千葉県	R5	R6	R7	R7 全国
小学校	94.4%	95.5%	95.5%	96.5%
中学校	88.0%	92.7%	94.0%	94.0%

令和7年度 CHIBAの学力向上施策報告書

① Coaching

教員の授業改善推進事業

	事業名	昨年度予算(千円)	目的・内容	今年度の取組・進捗	今年度のまとめ	次年度に向けて(改善ほか)
1-1	ちばっ子の学び変革推進事業	1748	<p>【目的】 本県における児童生徒の資質・能力の育成に資するため、県教育委員会は「ちばっ子の学び変革」推進事業の研究校を指定し、その成果の普及に努める。</p> <p>【内容】 研究指定校は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。 また、県教育委員会の様々な学力向上施策を通して、課題解決に向けた取組を行い、資質能力及び学力向上に向けた継続的な検証改善(PDCA)サイクルを確立して、その結果の普及を図る。 ※研究指定校は、各教育事務所管内の小学校2校及び中学校2校(計20校)</p>	<p>・令和7年度から令和8年度までの2年間の研究指定の1年目となる。 4月9日(水) 推進事業連絡会 4月15日(火) 推進事業連絡協議会 11月14日(金) 推進研修会 11月 学力向上交流会等で発表 1月30日(金) 推進事業連絡協議会</p>	<p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に全職員が意識して取り組んでいる。学校質問調査の肯定的回答の割合 小学校(95.9%) 中学校(96.7%) 高等学校(92.8%) ○研究のねらいである「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点については、広められた。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の手立てが、偏ることなく日常的に取り入れられるよう周知を図っていく。</p>	<p>○来年度は、研究指定2年目ということで、研究指定校には授業公開と研究協議会の参集開催を義務付けている(10~12月開催予定)。各教育事務所の担当指導主事と連携し、全県の参考となる取組、検証結果が普及できるよう研究指定校を支援していく。</p>
1-2	学力向上交流会	160	<p>【目的】 優れた授業実践や研究指定校における研究成果などを周知するとともに、授業技術や学力向上に関する協議を通して、教員の授業力の向上を図る。</p> <p>【内容】 各教育事務所(オンライン会議システム等の活用)主催で交流会を開催し、目的に照らして全体会、分科会等を行う</p>	<p>4月 第1回オンライン担当者会議 7~8月 開催案内発出 県施策解説動画の作成 8月下旬 参加者登録 11月 学力向上交流会 12月 アンケート結果分析 1月 第2回オンライン担当者会議</p>	<p>○オンライン会議システム(Zoomミーティング)を活用することで、移動時間とコストの削減につながった。また所属校から柔軟な参加ができ、当日行ったグループ協議では、各校の取組について活発な意見交換ができた。 ○ちばっ子学び変革推進事業に係る検証協力校の実践発表を設けることで、学力向上に向けた好事例を共有することができた。 ○参加者の交流会に関する満足度 肯定的回答97.9%</p>	<p>○各教育事務所の現状と課題を踏まえて、グループ協議のテーマをより精選する。 ○交流会での学びを自校でどのように生かし、広めていくか検討を進める。</p>
2	授業づくりコーディネーター	900	<p>【目的】 卓越した技能と専門性を生かし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めている教員を「授業づくりコーディネーター」として認定し、授業公開等を行うことで、地域の教員の授業改善を図る。</p> <p>【内容】 (1) 授業公開 (2) 授業に関する資料等の提供 (3) 授業に対する指導・助言 (4) 研修会の講師等 (5) 実践事例の公開</p>	<p>4月 認定通知送付 全体研修会 授業実践事例作成依頼 活動報告提出依頼 HP更新 9月 R8年度コーディネーター推薦依頼 2月 R8年度コーディネーター選考委員会 R7年度授業実践事例の公開 3月 R8年度コーディネーター内定通知 活動状況集計</p>	<p>○活動実績は毎年2000回(令和7年度は現在集計中)を超えており、教員の資質・能力の向上に資する取組であるといえる。しかし、その多くが自校内での活動となっており、授業づくりコーディネーターが他校で活動する機会が少ないという課題があった。教員不足が深刻化する中、授業づくりコーディネーターが自校を離れて他校に出張することが難しい状況にある。</p>	<p>○教員が不足している現状では要請を受ける学校側の負担は大きく、活用が難しい。一方、各教育事務所において要請訪問の手続きを簡略化する等の工夫がされたことで、指導主事を活用した研修の機会が増えている。 以上のことを踏まえ、授業づくりコーディネーターの担ってきた役割を、教育事務所の要請訪問により引き継ぐことを検討していく。</p>
3	「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム	0	<p>【目的】 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために、「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用を推進するとともに、それを活用した授業実践資料等について広く周知することで、教員の授業力向上を図る。</p> <p>【内容】 (1) 研修会や学力向上交流会等で実践モデルプログラムを活用した研修や協議を行う。 (2) 各学校における活用事例を周知し、活用を促進する。</p>	<p>・これまでの実践モデルプログラムの特徴を生かしつつ、「個別最適な学び」「協働的な学び」を踏まえた子どもの学びの視点も説明に加えていく。 ・各種研修会で実践モデルプログラムの視点について、内容に取り入れるかどうか検討する。 随時 県教育委員会ホームページを更新して、活用事例を周知する。 2月 好事例を最終的に取りまとめる。</p>	<p>1 学力向上施策アンケート(学校代表者回答)において以下の結果がみられた。 ア 児童・生徒に対して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に意識して指導に取り組んでいますか。 小学校 96% 中学校 97% 高等学校 93% イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を活用した授業改善に取り組んでいますか。 小学校 93%(前年95%) 中学校 87%(前年92%) 高等学校 66%(前年75%) ウ 授業で「自分の言葉で学習のまとめを書く」場面を意図的に設定するように取り組んでいますか。 小学校 96%(前年99%) 中学校 96%(前年98%) 高等学校 90%(前年95%) 2 指導主事による学校訪問、学力向上施策に関する動画、学力向上交流会などさまざまな場面で周知を図った。</p>	<p>○全教員がオンデマンドで視聴することができる学力向上施策に関する説明動画において、実践モデルプログラムの紹介をする際、「個別最適な学び」「協働的な学び」を踏まえた子どもの学びの視点について加えた。一方で、実践モデルプログラムのリーフレットの改訂まで行うことはできなかったため、次年度の改訂をめざしたい。 ○活用について、アンケートの数値が減少しているが、実践モデルプログラムの指導の型にとらわれず、「個別最適な学び」「協働的な学び」を踏まえた子どもの学びの視点を意識していることが一因ではないかという傾向として捉えることもできる。今後もこのモデルプログラムのより良い活用について検討していきたい。</p>

4	全国学力・学習状況調査に係る分析シートの活用促進		<p>【目的】 全国学力・学習状況調査のデータ及び分析シートの活用を促進し、結果分析等の結果から各市町村及び小・中学校の検証改善サイクルの確立を支援する。 また、全国学力・学習状況調査の結果や学力向上策をまとめ、各市町村教育委員会及び小・中学校の学力向上への取組の支援に努める。</p> <p>【内容】 509 (1) 学力学習状況調査分析・活用事業ワーキンググループを発足し、全国学力・学習状況調査の結果分析や県の課題に対する授業改善プラン等を作成し、定期刊行物を発行して県内の学校に周知する。 (2) 市町村教育委員会担当者を対象に「全国学力・学習状況」活用研修会を行い、市町村及び小・中学校での結果分析を支援し、学校内の情報共有や授業改善等取組の充実を図る。(総合教育センター学力調査部) (3) 分析結果をリーフレットや全国学力・学習状況調査活用の手引きにまとめ、市町村教育委員会及び県内公立小中学校等に配付するとともに、学力向上交流会や訪問指導を通して学力向上への取組を推進する。</p>	<p>・学力学習状況調査分析・活用ワーキンググループの日程 4月17日(木) 全国学力・学習状況調査の実施 4月21日(月) 事業の趣旨説明 5月～9月 問題・結果分析、授業改善案の作成など ※11月 学力向上交流会等で周知、アンケート調査の実施等 1月22日(木) 次年度に向けた取組の検討等</p>	<p>①全国学力・学習状況調査(学校質問調査) ・授業研究や事例研究等、実践的な研修を行った。 肯定的回答:小学校(97.8% 昨年度から+0.2) 中学校(91.6% 昨年度から-3.3) ・「全国学力・学習状況調査」の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。 肯定的回答:小学校(95.5% 昨年度から±0.0) 中学校(94.0% 昨年度から+1.3)</p>	<p>○令和8年度「全国学力・学習状況調査」は、令和8年4月23日(木)に実施される予定である。問題・結果分析に基づいた授業改善例を、リーフレット及び県教育委員会ホームページで周知し、各学校の授業改善に向けた取組を推進する。 ○本事業が小中学校における学力向上に向けた取組の中核となるよう、リーフレットや定期刊行物を発行する際に、学力向上の施策の関連性を考慮した紙面構成とするよう工夫しつつ、個別最適な学びや協働的な学び等についてもより充実した内容にしていく。 ○「学力向上通信」の更なる活用を目指して、県HPの掲載や訪問等を通して周知を図っていく。</p>
5	学力向上通信COMPASS				<p>②令和7年度学力向上施策に関するアンケート ・令和7年度「学力向上通信」を校内で活用しているか。 肯定的回答:小学校(78.0% 昨年度から-10) 中学校(56.5% 昨年度から-21.5)</p>	
6	達人の授業解説動画		<p>【目的】 児童生徒に学力を付ける教科指導のポイントを明示し、校内研修及び若手教員や講師の自己研修に活用できるような授業解説動画を作成し、教員の授業改善を図る。</p> <p>【内容】 0 授業力の高い教員の授業映像に、教科指導の解説をつけた動画を制作し、令和5年度～6年度にかけて3期に分けて配信する。令和7年度も、継続配信する。</p>	<p>・配信されている達人動画の活用促進を促す。 (1) 教育事務所の学校訪問等で周知し、活用を促す。(初任研や若手研等) (2) 周知文書発信 (3) 千の葉の教師塾で活用する。</p>	<p>○「千の葉の教師塾」で紹介し、視聴を促した。 ○教育事務所の学校訪問等で周知し、若手教員の校内研修等で活用を促した。 ○指導主事研修会で活用し、指導主事の指導力向上を図った。</p>	
7	英語パフォーマンステスト実践事例集		<p>【目的】 各学校において、児童生徒の4技能「聞く」「話す」「読む」「各」力が適切に評価されるようパフォーマンステストの事例を県で作成し共有する。</p> <p>【内容】 0 学習指導要領に沿った授業改善として、「話す・書く」の領域の指導と評価が一体となるよう小中高등학교で参考となるテストを作成。</p>	<p>・県ホームページの掲載場所等を周知する。</p>	<p>○各指導主事研修会や各学校訪問等の際に周知し、活用を促した。</p>	<p>○引き続き、各指導主事研修会や学校訪問の際に周知し、活用を促していく。</p>
8	教科等横断的な学習指導事例		<p>【目的】 問題発見や課題解決の能力等の育成に向けて、本県作成の教科等横断的な学習の実践事例を各校で活用することを通して、学校のカリキュラム・マネジメントの充実を図る。</p> <p>【内容】 0 指導室訪問等の計画訪問や要請訪問を実施する際に、学校に実践事例の具体的な実践事例を紹介し、活用を促しながら周知を図る。</p>	<p>・県ホームページの掲載場所等を周知する。</p>	<p>○指導室訪問等で活用を促した。</p>	<p>○引き続き、指導室訪問等で県ホームページの掲載場所等を周知し、活用を促していく。</p>

令和7年度 CHIBAの学力向上施策報告書

②Human resources

魅力ある専門分野の人材活用事業

	事業名	昨年度予算(千円)	目的・内容	今年度の取組・進捗	今年度のまとめ	次年度に向けて(改善ほか)
1	専科非常勤講師等の配置(小)	474000	<p>【目的】 児童の学力及び学習意欲等の向上を目指し、専門的な教科指導の充実や質の高い授業づくりを行うため、県独自に専科教員等を小学校へ配置する。</p> <p>【内容】 算数・理科について、学習指導の充実を図るため、専科教員を学力の向上に意欲的な学校に配置する。対象となる学年は3・4年生。 体育・図工について、専門的な指導力を備えた外部指導者を専科指導員として教育事務所が決定した学校へ配置する。教科指導は担任が行い、実技模範などを専門的な技術を身に付けた非常勤講師が行うことで、児童の意欲・技能の向上を目指す。対象は1～4年生。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校専科非常勤講師等を配置する。 ・学校訪問を継続し、実際の児童の様子、学校や講師からの聞き取りの内容も含めて本事業の効果について考察する。 	<p>○算数や理科に関しては、個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指した授業改善も見られましたが、児童が考える時間が短く、説明ばかりになってしまふ教師主導型の授業も多く見られた。指導者によって差が感じられる。</p> <p>○体育科・図画工作科に関しては、講師による専門性の高い技術を体験することができており、児童生徒の意欲の高まりが期待できる。</p>	<p>○魅力ある専門分野の人材を探すのが大変なのが実情である。人材バンクを作り、人材発掘に日頃から取り組んでいく必要がある。</p> <p>○全校配置を目標に毎年度20校ずつ増進していく予定である。また、令和8年度から「算数」を毎年度5校ずつ減らし、効果が高い「理科」「体育」「図画工作」へ振り替えていく。</p> <p>○本事業の目的や方法、講師の役割や位置付け等について十分に理解した上で運用できるよう、各教育事務所・各市町村教育委員会・配置校等への周知に努めていく。</p>
2-1	特別非常勤講師等の活用	16932	<p>【目的】 優れた知識や技術を有する人材を講師として、学校教育に活用することにより、学校教育の多様化への対応とその活性化を目的とする。</p> <p>【内容】 特別非常勤講師は、全教科、外国語活動、道徳、総合的な学習の時間の領域の一部及び小学校におけるクラブ活動の指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「講師派遣申請書」提出期限 第1次 令和7年 5月16日(金) 第2次 令和7年 8月 8日(金) 第3次 令和7年10月17日(金) ・検証のため、11月末までに特別非常勤講師の配置を行った学校に、アンケート調査を行う。調査は、県教育庁学習指導課から各教育事務所を通じて、各市町村教育委員会へ依頼する。全体の集計は学習指導課が行い、その結果を次年度に反映させる。 	<p>○配置により学ぶ意欲の向上につながっているか。 ①児童生徒が自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか。【肯定的 98%】 ②児童生徒が多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしているか。【肯定的 99%】 ③魅力的な学習活動であり、児童生徒が最後までやろうとする意欲が持てたか。【肯定的 97%】 ④人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか。【肯定的 99%】 ○満足度がとても高い。配置している教科は技能教科が多く、教職員の指導力向上にもつながっている。</p>	<p>○各教育事務所が申請している希望配当時間数の7割程度を配置している。各学校にアンケートをとったところ、同様の規模で行いたいという回答が一番多かった。</p> <p>○令和7年度は、外国語及びプログラミングを含むICT関連の総授業時数は昨年度と同程度だった。今後も教育事務所や市町村教育委員会と協力し、各学校に引き続き周知を続けていく。</p>
2-2	塾講師を活用した学習支援モデル事業	20000	<p>【目的】 本事業は、塾講師などの民間人材を放課後や長期休業中の補習及び授業補助に活用するモデル事業として、各市町村が同様の事業を展開する際の参考とできるようにする。</p> <p>【内容】 県内小中学校において、塾講師などの民間人材を放課後や長期休業中の補習及び授業補助に活用し、児童生徒の学力向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・塾講師などの民間人材を放課後や長期休業中の補習及び授業補助に活用するため、県内小中学校10校に派遣する。 ※令和6年度実施校10校中9校を継続とし、補習のみ実施する学校を、A・B地域ともにそれぞれ 小・中1校ずつ設定し効果検証を行う。 ・各市町村が同様の事業を展開する際の参考とできるように、各市町村教育委員会向けに授業支援及び補習の公開と説明会を実施する。(6月・7月) 	<p>○塾講師を活用した補習により、授業ではつまづいていた子供たちの理解が深まっている。</p> <p>○児童生徒の実態を把握した上で、その日のうちに補習を実施する、授業補助との連動の効果は高い。</p> <p>○令和6・7年度に説明会等を実施し、各市町村向けに情報提供を行った。 参加した市町 R6：15市町 R7：14市町</p>	<p>○学力向上通信COMPASSで検証結果を取りまとめ、教師と塾講師の連携による効果的な指導方法や授業で生かせるポイント等を県内の小中学校に周知し、県全体の教員の指導力向上につなげていく。</p> <p>○本事業で得た「効果的な授業補助者の活用方法」や「授業補助者との連携による効果的な指導方法」などのノウハウを県学習サポーター派遣事業で活かすことで、児童生徒の学力向上を図っていく。</p>
3	学習サポーターの派遣(小・中)	44124 国1/3 県2/3	<p>【目的】 退職教員や教員を志望する大学生など多様な地域人材を学習サポーターとして派遣し、児童生徒の学力向上を図る。</p> <p>【内容】 千葉市立を除く市町村立の小・中学校及び義務教育学校において、放課後等の補習学習における児童生徒への学習支援、授業中における児童生徒への学習支援、家庭学習の充実・習慣化づくりに係る業務を行う。1人当たりの勤務：年間128時間・32日(令和7年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5月 千葉県学習サポーター派遣事業連絡協議会開催(オンライン会議) ※令和7年5月8日(木)、教育事務所及び市町村教育委員会、派遣校の各担当者を対象に実施 ・6月 千葉県学習サポーター派遣開始 ※雇用開始日～令和8年2月27日(金)までのうち、年間128時間・32日以内 ・10～11月 学習サポーター派遣校への訪問(各教育事務所管内、小中各1校) ・3月 派遣校が実施報告書を提出→とりまとめ 	<p>○配置校訪問の授業参観等でサポーターによる学習支援の効果を確認できた。※配置校から抽出した10校に訪問し、授業参観と学習サポーター、管理職等の面談を実施。</p> <p>○実施報告書にて「学習意欲の向上」「学力の課題の改善」の観点で実施校アンケートを3月上旬に実施予定。</p>	<p>○来年度から、「学習サポーター研究協力校」を設け(県内20校)、授業補助に加え、放課後等の補習における支援を行う。</p> <p>○「塾講師を活用した学習支援モデル事業」で得た成果を本事業で活かしていく。</p>

4	STEAM教育講師の派遣(高)	1600	<p>【目的】 STEAM教育特別授業実施校を指定し、指定校の生徒が、文系・理系といった枠にとられず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれらを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成を目指す。また、実施校における成果を県内で広く共有することで、県全体で教科等横断的な学びや探究的な学習の推進を図る。</p> <p>【内容】 (1) 特別授業の計画を策定し、講師の選定と依頼を行う。 (2) 特別授業等の開催に係る事務と当日の運営を行う。 (3) 生徒用アンケート(Microsoft Forms等)を作成し、特別授業実施後に実施する。 (4) 学校のウェブページへの掲載や各種発表会において報告を行うなど、全県への普及・発信を行う。</p>	<p>4月 実施計画を立案 5月 実施計画書提出 5月～3月 特別授業等の開催、生徒用アンケート実施 事業終了後速やかに実施報告書を提出</p>	<p>○1月現在、実施報告書はほとんど提出されていないため、のアンケート結果からの分析は難しい。ただし、匠達高校では、「STEAM教育特別授業」で国際ドローン協会の方に講師を依頼したことがきっかけで連携が広がり、匠達市、匠達市民病院、国際ドローン協会、匠達高校などによるドローンを活用した市内の医薬品輸送に関する実証実験を進めるための協定書を締結した。このような、地域の人材・資源を活用した探究学習の推進が期待される。</p>	<p>○「STEAM教育特別授業」はあくまでも動機付けの機会である。各学校で、社会に開かれた教育課程の理念のもと、生徒の学習への興味・関心が高められるように、産業界等とも連携し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくような取組を期待したい。好事例をいかに他校に広げていくか、課題である。 ○今年度は8校を指定し、STEAM教育特別授業を実施したが、来年度は公募で4校程度新規に募集し、12校を指定する予定である。</p>
5	SSHコーディネーターの配置(高)	7308 国1/1	<p>【目的】 スーパーサイエンスハイスクール指定校における探究活動の深化</p> <p>【内容】 外部連携や探究活動を支援するためのコーディネーターを配置する。</p>	<p>・令和8年度コーディネーター事業採択を目指す。配置校以外にその効果が広がるよう、活用を推進する。</p>	<p>○各SSH校の状況を調査し、効果的なコーディネーターの活用方法を検討した。</p>	<p>○令和8年度コーディネーター事業の採択を目指したが、不採択となった。指摘事項を精査し、次年度採択に向けた人選等を進めていく。</p>
6	外国人児童生徒等教育相談員の配置	29845 国1/3	<p>【目的】 日本語指導が必要な全ての外国人児童生徒等に日本語指導を実施すること、日本語指導のほか授業支援やキャリア支援を行うこと。</p> <p>【内容】 日本語指導を必要とする県立学校の外国人児童生徒等に対して、母国語を話すことができる相談員を学校に派遣し、日本語指導、適応指導、授業支援、キャリア支援を行う。</p>	<p>・令和7年6月4日現在で、48校にのべ96名の相談員を派遣している。</p>	<p>○令和8年1月14日現在で、52校にのべ108名の相談員を派遣した。申請のあった全ての県立学校に相談員を派遣することができた。</p>	<p>○年度末に行う相談員配置への照会時に、対象生徒がいるにも関わらず、配置申請がない学校には、外国人児童等教育相談員として登録している人材の活用について案内する。 ○入学時から雇用時まで支援できないということを防ぎ、学習の遅れや保護者対応など、学校に問題が生じることを防ぐ。 ○多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の実現のため、次年度も支援対象者が在籍する分の相談員予算は措置する。年度当初に全員雇用でき、新入生の支援対象者分の予算が不足する場合は、流用対応を検討したい。</p>
7	外国語指導助手(ALT)等の配置(高)	290310	<p>【目的】 子供たちが世界への視野を広げ、外国語を使つてのコミュニケーションを楽しみ、自己の考えなどを主体的に発信する力を付けるため、外国語指導助手(ALT)等を活用し、授業の質を高める。</p> <p>【内容】 生きた英語による実際のコミュニケーションの体験や異文化理解の深化を図るため、県立学校にALTを配置する。令和7年度は、直接雇用ALT19名、民間派遣ALT41名、計60名を159校(164課程)に配置する。</p>	<p>・5月23日(金)姉妹州プログラムALT春季研修会を実施 ・7月31日(木)姉妹州プログラム新規招致ALT来日 ・10月17日(金)姉妹州プログラムALT秋季研修会を実施 ・英語教育拠点校としての授業公開及び授業実践研究協議会</p>	<p>○姉妹州プログラムALTについては、生徒が多様な価値観や考え方に触れたり、英語を使って自分の考えや意見を表現したりする機会の充実を、授業の内外で図る取組が見られた。民間派遣ALTについても概ね高い評価を得ており、派遣業者による学校訪問も積極的に行われ、報告書の記載内容と併せてALT活用効果を見取るとともに、更なる改善を図ることができた。</p>	<p>○特にグローバルに活躍できる人材の育成を目指し、事業の拡充が予定されている。英語を学ぶモチベーションや、より高度な言語活動の実現のため、ALTの役割について研究し、成果を普及したい。 ○英語教育拠点校間では様々な取組の共有が行われている。民間派遣業者とも協力しながら、全てのALTや英語担当教員の指導力向上につながるような取組を実施したい。</p>
8	探究学習等における地域人材の活用	2032	<p>【目的】 生徒が専門学科等の特性を生かして、地域の課題解決について探究することにより、自己の役割を理解しながら主体的に課題解決を図る力を養うとともに、自己の職業について考えることができるようにするため、インターンシップ等を位置付けた課題探究型のゼミを実施する。</p> <p>【内容】 拠点校：3校(学校の希望に応じて連携校を指定) 拠点校ごとにテーマを決定し、探究活動を実施 課題に関連する企業や官公庁におけるインターンシップ等を実施</p>	<p>令和7年2月：実施希望校募集開始 令和7年4月：拠点校・連携校の指定 【令和7年度実施校】 ・千葉工業高校(連携校：泉、生浜) 「児童・生徒に対するロボットのプログラミング体験および操作体験」 ・匠達 「地域課題を解決するソーシャルビジネスの発案と実践」 ・茂原樟陽 「茂原樟陽のポテンシャルを生かしたキャリア教育」</p>	<p>○千葉工業高校(連携校：泉、生浜) 千葉市内の小学校4校でロボットのプログラミング体験および操作体験を実施。 ○匠達 匠達市役所、NPO法人「ハジマリ」と連携して、ソーシャルビジネスの検討・発表を実施。 ○茂原樟陽 農業科の生徒が栽培した農作物を使った商品開発を実施。</p>	<p>○高校の魅力発信の取組を支援する「学校提案型魅力発信事業」と応募する学校の重複が見られ、また取組に近い内容も見られることから、事業を統合し、「課題探究型キャリア教育推進事業」として、全県立高校を対象に実施する。</p>

令和7年度 CHIBAの学力向上施策報告書

③Ict グローバル化への対応、個に応じた学びの推進事業

事業名	昨年度予算(千円)	目的・内容	今年度の取組・進捗	今年度のまとめ	次年度に向けて(改善ほか)
1 GIGAスクール通信 Educlution	0	<p>【目的】 ICTを活用した授業や校務に関する好事例を掲載し周知することで、活用の向上を図る。</p> <p>【内容】 各市町村で取り組んでいるICTに関連する取り組みを取材し紹介する。また国や県の動向を把握し、最新の情報を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各月GIGAスクール通信を1枚以上発行する。 ・ICTの好事例を紹介できるよう学校や市町村に取材し実践につなげられるよう分かりやすく紹介する。 ・国や県から通達する情報のうちICTに関連する動向や情報を役立つように紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月発行が追いつかず、不定期になってしまった部分があった。 ○ICTに関する事例や動向を紹介する機会としては、とても貴重な機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は12か月分の掲載内容を年度当初に企画しておいたものの、他の業務との兼ね合いから月1回の発行は間に合っていなかった。 ○県からの一方的な紹介だけでなく、市町村からも紹介してもらうことで、情報共有を図る機会にしていく必要がある。
2 ICTを活用した「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム(小・中)	0	<p>【目的】 ICTを活用した学習指導の充実を図るため、教員同士が指導案や事例を共有し授業改善につなげることができるようにする。</p> <p>【内容】 県教育委員会のホームページや前項のGIGAスクール通信を活用し、発信していくことで教員のICT活用指導力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・随時ポータルサイトにICT活用ヒント集の掲載(実践事例の掲載) ・各教育事務所に「実践モデルプログラム」の作成を依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校：全国学力・学習状況調査 R7学校質問紙から ・発表、表現 小学校34.8% 中学校38% ・児童生徒同士 小学校30.5% 中学校27.2% ○1人1台端末の更新も半ばに差し掛かっているが、活用が依然として進んでいない現状が実態として見える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○徐々に活用も向上しているが、まだまだ進んでいるとは言えない状況であるので、周知・普及の活動が必要である。 ○県のHPへの掲載も必要だが、同時に情報のアップデートも必要になってきているので、情報の取捨選択も行う必要がある。
3 各市町村イテオシ!の活用方法(小・中)	0	<p>【目的】 各市町村のICT活用で好事例を挙げてもらい、必要な情報共有を図れるようにする。</p> <p>【内容】 各市町村からイテオシ!といえる活用事例を挙げてもらい県教育委員会のホームページやGIGAスクール通信などで紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教育事務所から各市町村教育委員会に依頼しイテオシ!となるICT活用の好事例を挙げてもらう。 ・全て集約しICT活用のイテオシ!事例集を県教育委員会ホームページに掲載する。 ・特に全体に周知するような事例についてはGIGAスクール通信に取り上げ広く周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○R7も更新が出来なかった。 ○ただ、GIGAスクール通信については、紹介も行っているので引き続き、実施していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○R7年度は更新業務がピークを迎えており、各市町村もそこに注力している部分があるので、今後は更新業務がひと段落した市町村から、順に依頼していくと良い。
4 AI英会話学習支援システム(中・高)	11200	<p>【目的】 ・AIを用いた英会話学習支援システム(以降、AIシステムと呼ぶ)を効果的に活用することで、生徒の意欲・関心や英語力を高めるとともに、英語の授業における言語活動の充実を図る。</p> <p>・ICTの活用と授業との効果的な連携について発信することで、県全体として生徒の発力を高める。</p> <p>【内容】 ○実証研究校 中学校5校：船橋市立七林中、木更津市立岩根西中、鎌足中、富栄田中、清川中 県立高校2校：検見川、君津</p> <p>○活用方法 ・家庭学習及び授業における英会話練習として活用 ・「話すこと」の力を測定するパフォーマンステストとして活用</p> <p>○期待される効果 ・使用者の英語力に合わせた会話練習や、「英語を話す力」の総合的な測定が可能であることから、生徒に自信を持たせ、意欲を高めるとともに、学習の見直しを持ったり、学習を振り返ったりするために活用させることができる。</p> <p>・AIシステムの活用状況やテストの結果を、学校で授業を担当する教師やALTにもフィードバックすることで、さらなる授業改善を図ることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各実証研究校において、概ね計画のとおり事業を実施 ・1月現在、生徒の英語力や情意面の変化を分析中 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の実態により実施状況やスケジュールに差が出てしまったが、概ね予定されていた内容は実施できた。 ○詳細については分析中 	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度以降も実施予定であるが、文部科学省の求める事業の仕様に合わせつつ、中・高における英語教育の実態を鑑み、計画したい。
5 DX加速化推進事業(高)	295775	<p>【目的】 ・高等学校におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の充実を図るため、国の補助金を活用して、ICT機器整備等を行う。</p> <p>【内容】 ・情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、専門的な外部人材の活用や大学等との連携などを通じてICTを活用した探究的・文理横断的・実践的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各採択校において、概ね計画のとおり事業を実施 ・都道府県における域内横断の取り組みについては、教員向け研修、生徒向け講座、成果発表会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○管財課への物品調達依頼は全て期限内に終了した。 ○各採択校の委託事業についても、支援の結果、概ね順調に移行している。 ○域内横断的な取り組みについてもスケジュール通りに進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「モノ」から「コト」へ向けた取り組みを行う。 ○全国情報教育コンテストへの参加をより一層促していく。

6	ICTが効果的に活用されていた学習事例学習ポータルサイト(高)	0	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科等の学習の中でICT機器を連動し、一斉に意見を発信したり、リアルタイムに多様な意見を比較・議論したりしながら問題解決する活動を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現及び学ぶ意欲の向上を図る。 ICTを活用した学習指導の充実を図るため、教員同士が指導案や事例を共有し授業改善につなげることができるようにする。 児童生徒の情報活用能力の育成のために、児童生徒の発達段階を考慮して整理した情報活用能力育成のための体系表に基づく、ICTを活用した授業を実施するとともに、「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムに基づく、情報活用能力の育成のための授業実践を行い、教員のICT活用指導力の向上を図る。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内の各学校においてICT機器を活用した授業の実践事例等をもとに、ICTを活用した授業実践を行う。 県立学校においては、教員同士が指導案を共有し授業改善につなげることができるポータルサイトの活用を進め、教員のICT活用指導力の向上を図る。 	<p>随時</p> <ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトにICT活用ヒント集の掲載(実践事例の掲載) 掲載事例の中からICTを活用した効果的事例を周知 実践事例をもとに研究指定校に対してICTを活用した授業実践を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全県立高等学校へポータルサイトの掲載を依頼した。 学校DX推進パートナーと連携して、より効果的に事例を蓄積した。 	<ul style="list-style-type: none"> さらなる活用率の向上のため、各種会議や研修会等で周知していく。
7	ワークショップハッカソン	0	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラミングを用いた課題解決力の育成や情報活用能力の向上を図るため、県内の高校生を対象に、イベント内でアプリ開発などを実施するワークショップ「ハッカソン」を開催するほか、技能を競うためのコンテストを開催する。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> Power Platformを利用したアプリケーションの開発手法を習得。 グループによるアプリ開発のアイデアの創出やグループワークによるアプリの開発。 完成したアプリケーションの発表会。 	<ul style="list-style-type: none"> 県立高校生を対象に、「Power Platformを活用した高校生向けハッカソン」を開催。 9月14日、15日に、県立現代産業科学館で、33人11チームが参加し、アプリを開発。 9月27日には、日本マイクロソフト(株)品川本社にて発表会を開催。 発表会後、10月31日まで、オンライン技術サポートを行い、全国情報教育コンテストへの応募を後押しする。 	<ul style="list-style-type: none"> 3日間開催だったが、開発期間が短いとの意見があった。 他校との交流を交えつつ実施され、協力してのアプリ開発に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 開催時期、開催期間について調整する。 高校生が参加しやすい開催場所について、考察する。 今年度実施された成果物等を分析し、来年度へ繋げていく。
8	学びの未来デザインシート活用(小・中)	1000	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでのデザインシート問題等を各学校が主体的に活用し、自校の課題解決等に生かすとともに、教員の授業改善のため活用できるようにする。 (参考)デザインシートは、ちばっ子「学力向上」総合プラン〔令和2～6年度〕のダブル・アクションの取組をチェックする機能を有するものとして開発したもので、令和5年度は全ての公立小・中学校を対象にCBTにより実施し、その結果を児童生徒及び学校にフィードバックした。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでのデザインシート問題等を文部科学省CBTシステム(以下、「メクビット」という。)に掲載する。 各学校にデザインシートのねらいや結果分析の方法等を示し、活用方法を周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間業者に委託し、令和4～5年度のデザインシート問題等をメクビットに掲載する。 令和4～5年度に実施したデザインシートの千葉県結果を県ホームページで公表する。 デザインシートのねらいや結果分析、研修会を通して教員の指導力向上を図る手立てを周知し活用促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでのデザインシート問題等を文部科学省CBTシステムに掲載予定(年度内)。 	<ul style="list-style-type: none"> デザインシートのねらいや活用の仕方について、各研修会等での周知を通して教員の指導力向上を図る。

令和7年度 CHIBAの学力向上施策報告書

⑤Assist

子供たちの主体的な学び促進事業

事業名	昨年度予算(千円)	目的・内容	今年度の取組・進捗	今年度のまとめ	次年度に向けて(改善ほか)
1 ちばっ子チャレンジ100(小)		<p>【目的】 全国学力・学習状況調査(国語・算数・理科)をもとに、本県児童の正答率の低い問題の類似問題及び基礎・基本と思考力・表現力・判断力等を高める問題を作成するとともに、その問題についてWeb配信やメクビットを活用し、取り組めるようにすることにより、児童の基礎・基本となる内容の確実な習得、及び思考力・判断力・表現力等の向上を図り、中学校の学習への円滑な接続に資する。</p> <p>【内容】 ①各学校を通じて児童及び保護者へ周知するとともに、「ちばっ子チャレンジ100」を積極的に活用している学校の取組事例を、県教育委員会ホームページに掲載することでさらなる活用促進を図る。 ②全国学調で正答率の低い問題の類似問題を「学力向上通信(COMPASS)」に掲載するなど、他の事業との関連を図ることさらなる活用促進を図る。 ③1人1台端末等の活用による文部科学省CBTシステム(メクビット)の活用促進を図る。</p>	<p>・R4、5に作成した問題に【思・判・表】を明記する作業を行う。その後、県HPに掲載する。 ・学校や県民からの問題や回答の修正に対応する。</p> <p>4月～ R5に改訂した問題(国語・理科)がメクビットに掲載されていることを確認 5～12月 学力向上交流会や学校訪問等で周知、さらなる活用の促進 ※活用状況については、県HPのアクセス数等により把握 12月 利活用状況を確認(学力向上に関するアンケート調査)</p>	<p>○「算数」「理科」の既存問題に【思・判・表】を明記し、県HPに掲載したことで活用しやすくなった。 ○県民や県内の学校だけでなく、他県からも活用したいとの連絡があり、多くの方に活用されていた。 ○学力向上に関するアンケート調査 ・「ちばっ子チャレンジ100」は、69%の学校で活用されていた。</p>	<p>○学校へのアンケートを集約すると、69%の小学校で「ちばっ子チャレンジ100」の活用が進められており、昨年度と同程度であることが分かった。今後もより一層の活用促進に向けた情報発信を行っていく。</p>
2 ちばのやる気学習ガイド(中)	200	<p>【目的】 全国学力・学習状況調査(国語・数学・理科)をもとに、本県生徒の正答率の低い問題の類似問題及び基礎・基本と思考力・表現力・判断力等を高める問題を作成するとともに、その問題についてWeb配信やメクビットを活用し、取り組めるようにすることにより、生徒の基礎・基本となる内容の確実な習得、及び思考力・判断力・表現力等の向上を図る。</p> <p>【内容】 ①「ちばのやる気学習ガイド」の社会及び英語の問題改訂(既存問題の見直し、新規問題の作成・追加等)を行う。 ②各学校を通じて生徒及び保護者へ周知するとともに、「ちばのやる気学習ガイド」を積極的に活用している学校の取組事例を、県教育委員会ホームページに掲載することでさらなる活用促進を図る。 ③全国学調で正答率の低い問題の類似問題を「学力向上通信(COMPASS)」に掲載するなど、他の事業との関連を図ることさらなる活用促進を図る。 ④1人1台端末等の活用による文部科学省CBTシステム(メクビット)の活用促進を図る。</p>	<p>・学校や県民からの問題や回答の修正に対応する。</p> <p>4月～ R5に改訂した問題(国語・理科)がメクビットに掲載されていることを確認 5～12月 学力向上交流会や学校訪問等で周知、さらなる活用の促進 ※活用状況については、県HPのアクセス数等により把握 12月 利活用状況を確認(学力向上に関するアンケート調査)</p>	<p>○県民や県内の学校だけでなく、他県からも活用したいとの連絡があり、多くの方に活用されていた。 ○学力向上に関するアンケート調査 ・「ちばのやる気学習ガイド」は、60%の学校で活用されていた。</p>	<p>○学校へのアンケートを集約すると、53%以上の中学校で「ちばのやる気学習ガイド」の活用されており、昨年度より7ポイント増加していることが分かった。今後もより一層の活用促進に向けた情報発信を行っていく。</p>
3 家庭学習のすすめ(小・中)	0	<p>【目的】 家庭学習教材等の内容を充実させ、活用促進を図ることで、家庭学習への支援をし、小中学校の保護者向けリーフレット等で情報発信したりすることにより、家庭学習の定着や家庭学習への理解を図る。</p> <p>【内容】 ①小中学校の国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語の家庭学習教材等の充実を図り、計画的に配信提供するとともに、積極的な広報活動を通して、活用を促進する。 ②家庭学習リーフレット(小学校低・中・高学年保護者用、中学校保護者用)の活用促進、保護者向け及び教員向け情報の充実を図り、家庭学習への理解を深め、学習習慣の定着を図る。</p>	<p>・掲載内容の確認及び更新すべき内容の確認。 ・県ホームページのアクセス数を確認し、活用動向を把握する。</p> <p>・適宜、HPの内容を見直すなど更新作業を進める。 ・サイトの活用状況を確認(学力向上に関するアンケート調査)</p> <p>5～12月 学力向上交流会や学校訪問等で周知し、さらなる活用を促す。 1月 成果と課題をまとめる。</p>	<p>○学力向上に関するアンケート調査 「サイトについて、掲載された資料を活用し、家庭学習の取り組み方について、児童に対して指導したり、保護者等に対して説明したりしていますか。」及び「家庭学習として、個に応じた課題を出すなど工夫していますか。」について肯定的に回答した割合が概ね6割程度である。 ※「教員」に対する肯定的回答の割合 「資料の活用」 小学校70% 中学校50% 「個に応じた課題」 小学校74% 中学校59%</p>	<p>○県ホームページの内容について、適宜時点修正を行ったりして、引き続き更新を図っていく。また、「ちばっ子チャレンジ100」や「ちばのやる気学習ガイド」の活用促進を併せて、学校訪問等を通して、各学校が児童生徒等に対して家庭学習の取組を具体的に指導することができるよう県ホームページの周知及び活用促進を図っていく。</p>
4 優良・優秀学校図書館の認定	0	<p>【目的】 優良・優秀学校図書館の認定や優れた事例の情報提供などを通じて、一層の学校図書館の活用を図る。</p> <p>【内容】 自校の学校図書館の現状を把握することにより一層の活用に役立てるため、県独自の学校図書館自己評価表を使用し、自校の学校図書館の現状について自己評価し、その結果、基準を超えた学校図書館を優良又は優秀学校図書館に認定する。</p>	<p>・県が独自作成した学校図書館の取組について自己評価できる「ベネシークエスト」「トライアルシート」の結果を集約し、「物的・人的環境」「活用」「意欲の喚起」「外部連携」の観点ごとに県全体の状況を評価する。</p>	<p>○優良・優秀学校図書館に関する調査から「物的環境」「人的環境」「活用」等に関する調査項目を基にした優良図書館、優秀図書館の認定数や、各校種において前年度よりも増加している。加えて、令和7年度学力向上施策に関するアンケート調査より、学校図書館の整備環境に対して80%以上の学校が意識していることがわかった。本認定事業が学校に浸透している状況が伺える。 ○一方、小中学校の認定については、昨年引き続き地域差が依然解消されていない。加えて、地域によっては優秀校の認定が伸び悩む現状がある。</p>	<p>○昨年度同様、司書教諭を含む教員の若年化が顕著であり、教員の学校図書館への理解に向け、更なる研修内容の充実が必要である。 ○令和7年度学力向上施策に関するアンケート調査より、学校図書館の授業改善に対する活用が校種によっては70%程度である。 ○「第6次学校図書館整備等5か年計画」に基づいて地方財政措置がされる財源の活用について引き続き周知していくと共に、指導主事研修会等で学校図書館の活用状況を共有するとともに、教育事務所を中心とし学校訪問の際には、学校図書館の設備状況の確認をする。</p>
5 ピブリアバトル(高)	4	<p>【目的】 県内の高等学校等の生徒を対象に、読書の興味・関心を高め、読書活動の推進を図る。</p> <p>【内容】 各自が本を持ち寄り、各自の本の面白さについて5分程度で紹介し合い、一番読みたくなった本を参加者の投票で決定する書評会</p>	<p>8月・開催通知・要項の発出 9月・仮エントリーのあった学校に本エントリーの書類送付 ・表彰物購入 10月・大会実施</p>	<p>○千葉県子どもの読書活動推進計画(第五次)の具体的な取組の一つとして役割を果たすことができた。</p>	<p>○スタート時間・終了時間を厳守し、昨年度の改善点がしっかりと反映された。 ○昨年度同様、予選2票・決勝1票の投票方法で、スムーズに運営できた。 ○エントリー忘れが数校見られたため、次年度はリマインドメールを送付する。</p>

7	科学の甲子園 ジュニア(中) 科学の甲子園 (高)	546	<p>【目的】 科学の甲子園、科学の甲子園ジュニア千葉県大会を開催し、県代表校を選出するとともに、生徒の科学に対する興味・関心と知的探究心を高める取組を充実させる。県代表校には、全国大会に向けて強化トレーニングを実施し、探究心や創造性に優れた人材を育成する。</p> <p>【内容】 科学の甲子園、科学の甲子園ジュニア千葉県大会を開催し、県代表校を選出する。県代表校を対象に、全国大会に向け、大学等と連携して強化トレーニングを実施する。</p>	<p>【科学の甲子園ジュニア】 開催要項配付 5月 エントリー切 6月 問題検討・準備 7月 県大会 8月23日 千葉大強化トレーニング 11月 全国大会 12月12日～14日</p> <p>【科学の甲子園】 開催要項配付 6月 エントリー切 9月 問題検討・準備 10月 県大会 11月 千葉大強化トレーニング 2月 全国大会 3月20日～23日</p>	<p>生徒アンケート結果 ○「科学技術に関する学習意欲」肯定的意見（ジュニア） 参加前 89.2% 参加後 91.9% ○「理系の進路選択について」肯定的意見（ジュニア） 参加前 77.9% 参加後 83.3%</p> <p>【科学の甲子園ジュニア】 ○本年度も理数科進学フェアと同日開催できた。強化トレーニングも効果的に行うことができ、全国大会優勝につながった。</p> <p>【科学の甲子園】 ○本年度実施した第15回科学の甲子園千葉県大会は、21校33チーム214名が参加した。データのある第10回大会以降、最多の参加人数であった。</p>	<p>○より多くの生徒に大会に興味を持ってもらえるように、大会について広報する機会を増やす。 ○円滑な大会運営のために、全国大会の運営方法を参考に改善を行う。</p>
8	家庭学習用 TIPS動画(小)	0	<p>【目的】 子供の自然科学などに関する興味・関心を喚起するための動画をホームページに掲載し、自ら調べたり観察したりする力を育成する。</p> <p>【内容】 千葉県の自然、環境や、授業の発展的内容など、生活の中から子供たちの知的好奇心を喚起させる内容を掲載している。</p>	<p>・県ホームページに掲載している。 ・今後、新たに作成する予定はない。</p>	<p>○各指導主事研修会、学校訪問等で周知し、活用を促している。</p>	<p>○引き続き、各研修会や学校訪問等で周知し、活用を促していく。</p>